

輝く未来へ今、袋井が動き出す！～挑戦するDNAを呼び起こせ～

発行日：令和2年11月13日

留学生授業料等の助成事業

～ 挑戦する人を応援するまちづくり ～



郷土の偉人（浅羽佐喜太郎）に学ぶ 困った人を見過ごさない心

浅羽佐喜太郎（1867年～1910年）

浅羽佐喜太郎は、慶応3年（1867）に袋井市梅山（旧東浅羽村）に生まれ、帝国大学医科大学（現東京大学医学部）を卒業した後、小田原市（旧前羽村町屋）に浅羽医院を開業。

明治38年、ベトナム独立運動の指導者「ファンボイチャウ」は、日本にベトナムの窮状を訴え、援助を求めて来日。しかし、日本政府は援助することなく、フランス政府の要請を受けてベトナム人留学生への圧力を強めました。

困り果てたファンボイチャウは、梅山（現在の袋井市梅山）出身の医師で神奈川県で大きな病院を開業していた佐喜太郎に援助を求め、佐喜太郎は大金を与えて励ましました。

佐喜太郎は、ファンボイチャウが日本を去った翌年に43歳の若さで病死。その死を知ったファンボイチャウは、感謝の気持ちを表すために、佐喜太郎の菩提寺に記念碑を建てました。ベトナムと日本を結ぶ義侠の精神は、今も語り継がれています。

（袋井市・市勢要覧：「郷土の偉人」より抜粋）



浅羽佐喜太郎のひ孫
ひでおす
浅羽秀一さん
（梅山）

曾祖父、佐喜太郎に
関心を持っていただき光栄です

常林寺を訪れた天皇、皇后両陛下を、佐喜太郎の子孫として、原田市長や高木議長、ご住職ともにお迎えさせていただきました。

碑に刻まれたファンボイチャウの思いを、「一文字一文字、じっくりと」ご覧になる両陛下の後方におりましたところ、碑の見学を終えられた天皇陛下から、思いもかけずお声を掛けていただきました。予想外のことで驚きましたが、その柔らかな優しい声と、寄り添い、ほほえむ両陛下のお姿がとても印象的でした。

両陛下に、ベトナム独立運動を支援した佐喜太郎に関心を持っていただき、この梅山の地にまでご訪問いただいたことを大変光栄に思っています。

佐喜太郎の支援は大義あるものであった一方、当時の国の方針とは合わなかったこともあり、当では代々、表立って話すことを控えていますが、今回の両陛下のご訪問により、それも良切りを迎えたと感じています。

両陛下にご視察いただいたことを機に、より多くの皆さんにファンと佐喜太郎の交流の歴史を知っていただき、日本とベトナムの交流がますます盛んになることを願っております。

平成30年11月27日、天皇、皇后両陛下が、明治時代末期にベトナム独立運動の指導者ファン・ボイ・チャウを支援した浅羽佐喜太郎の記念碑が建つ常林寺（梅山）と、ファンと佐喜太郎の交流に関する特別展を開催中であった市郷土資料館・近藤記念館（浅名）を訪問されました。

碑は、佐喜太郎をしのぶためにファンが村人と1918年に建てたもので、常林寺では原田市長が、資料館・記念館では館長が、碑建立の経緯や佐喜太郎とファンの交流、本市とベトナムとのつながりなどを説明すると、両陛下は記念碑や展示を熱心にご覧になりました。

広報ふくろい（平成31年1月）より抜粋